

不登校児童生徒への対応事例 14（高等学校各学年）

～不登校・中途退学の未然防止に向けた組織的な取組～

問題の把握

本校は、管内外合わせて20校近くの中学校から生徒が入学してくる高等学校であり、中学校とは異なる環境での生活になじめずに不登校となり、転学等の進路変更をしてしまう生徒が毎年数名出ていた。昨年度より、不登校生徒に対するこれまでの支援体制を見直し、より一層効果的な支援ができるよう、教育相談の充実や関係機関との連携を図った不登校の未然防止に向けた取組を組織的に進めている。

対応状況

○不登校生徒に対する取組の課題

不登校の原因

- ・ 病気
- ・ 生活習慣の乱れ
- ・ 人間関係のトラブル
- ・ コミュニケーションスキルの不足
- ・ 生育歴の問題
- ・ 家庭の事情

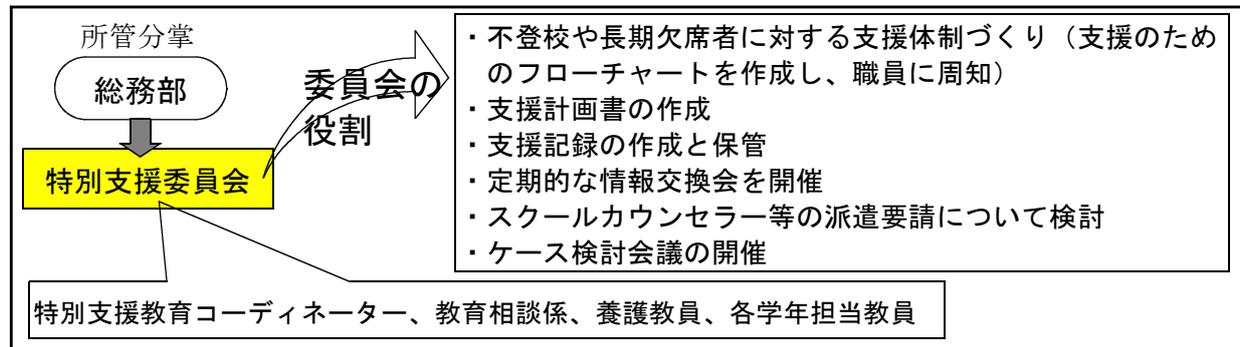
毎年数名の 不登校傾向の生徒

原因が多様で、
複合的なため対応が
難しい

これまでの課題

- ・ 教員間の情報交換が少ない。
- ・ 支援に向けた役割や手順が不明確である。
- ・ 問題を少数の教員で抱え込んでしまい、情報の共有が遅れて深刻化するケースがある。
- ・ 教員によって対応が異なり、生徒や保護者からの不信感につながる。

○不登校の解消に向けた校内体制の確立



○未然防止に向けた取組の推進

- ① 月例の職員会議で心配な生徒について定期的・継続的な情報交換と情報共有を行ってきた。
- ② 子ども理解支援ツール「ほっと」を実施（年2回）し、委員会で分析した結果を校内研修で報告し、全教職員で今後に向けた未然防止の取組を検討してきた。
- ③ 定例の教育相談を実施（1・2年生は、4・8・11・2月に担任・副担任が全生徒を対象）してきた。
- ④ 「総合的な学習の時間」におけるSST（ソーシャル・スキル・トレーニング）を計画的に実施してきた。

○取組の成果

- ・ 不登校や中途退学等の進路変更をする生徒が例年に比べ減少している。

不登校の問題に対応するためのポイント

- ・ 学校として一貫性のある組織的・計画的な体制づくりを推進し、支援の必要な児童生徒に対する多面的・多角的な児童生徒理解に努めること。
- ・ 全教職員による足並みの揃った支援を可能にするため、不登校・長期欠席者に対する対応の手順や在り方をフローチャートにまとめ共通理解を図り、対応すること。